

平成25年10月及び平成26年4月入学  
広島大学大学院文学研究科博士課程前期入学試験  
答案作成上の注意

専門分野	倫理学
------	-----

1. 試験に関する注意

- ① 試験開始後、直ちに下記の問題枚数等を確認してください。

問題枚数	3枚
解答用紙	3枚
下書用紙	1枚

- ② 受験番号等は、すべての解答用紙の所定の欄に記入してください。

2. 解答記入に関する注意

解答はすべて解答用紙に記入してください。

平成25年10月及び平成26年4月入学  
広島大学大学院文学研究科博士課程前期入学試験問題

専門分野	倫理学
------	-----

(3枚中の1枚目)

I (英語問題) 次の文章を読んで後の問に答えよ。

It is thus that ①rationalism leads to the conception of idealism, introduced above as a specific version of rationalism, which maintains that ②ultimate reality is reserved to ideas, whereas physical objects are but poor copies of the ideal ones. The conception has found its most absurd formulation in the theory that reason is the substance of all things, expressed in the passage quoted at the beginning of this book. We asked why ③a philosopher must phrase his conceptions in this way. We can now give the answer: because his primary interest is not an understanding of knowledge but something else. He wishes to construe knowledge in such a way that it supplies a basis for moral directives; he wishes to construct for knowledge a certainty which sense perception can never attain, with the intention to construct a parallel to such certainty in an absolute ethical knowledge. He does not hesitate to develop his system in picture language because he misunderstands ④the language of scientific explanation.

(Hans Reichenbach, The Rise of Scientific Philosophy)

問1 下線部①の考え方を説明せよ。

問2 下線部②の意味をわかりやすく説明せよ。

問3 下線部③に該当する思想家名を挙げよ。また、その思想内容を本文に即して述べよ。

問4 下線部④の言語を説明せよ。

(解答用紙に答えること)

平成25年10月及び平成26年4月入学  
広島大学大学院文学研究科博士課程前期入学試験問題

専門分野	倫理学
------	-----

(3枚中の2枚目)

Ⅱ (ドイツ語問題)

平成25年10月及び平成26年4月入学  
広島大学大学院文学研究科博士課程前期入学試験問題

専門分野	倫理学
------	-----

(3枚中の3枚目)

Ⅲ (日本語問題) 次の二つの文章を読んで後の問に答えよ。

(A) イスラーム哲学としては極めて初歩的な常識であって、それを否定する人は一人もいない。ましてや、この区別を知らない人、あるいは術語的に正しく使ってものを考えることのできないような人は始めから哲学者の数に入らない。その区別とは「①マーヒーヤ」(māhīyah)と「②フウィーヤ」(huwīyah)との区別である。

「いかなるものにも、そのものをまさにそのものたらしめているリアリティーがある。だが(ここで注意すべきは)このリアリティーは一つでなくて二つであるということだ。その一つは具体的、個体的なリアリティー(ḥaqīqah juz'īyah)であって、これを術語で huwīyah という。もう一つは普遍的リアリティー(ḥaqīqah kullīyah)で、これを māhīyah と呼ぶ。」…

「松の事は松に習へ、竹の事は竹に習へ」と門弟に教えた芭蕉は、「本質」論の見地からすれば、事物の普遍的「本質」、( a )、の实在を信じる人であった。だが、この普遍的「本質」を普遍的实在のままではなく、個物の個的实在性として直観すべきことを彼は説いた。言いかえれば、( b )の( c )への転換を問題とした。( d )が突如として( e )に③転成する瞬間がある。この「本質」の次元転換の微妙な瞬間が間髪を容れず詩的言語に結晶する。俳句とは、芭蕉にとって、実存的緊迫に充ちたこの瞬間のポエジーであった。

(井筒俊彦『意識と本質』岩波文庫、2005年、40頁、57頁)

(B) 「イデア」と訳された原語はエイドス **eidōs** で、それには実さい三重の意味がある。それは(一)性質、(二)形相あるいは本質、(三)なされつつある行為の目的…「眺め」とか、あるいはむしろ「瞬間」と訳してもよく…ものの不安定を写しとった安定した眺めである。それは④生成の瞬間として性質であり、発展の瞬間として形態である。…いまはたされつつある行為に活気をふきこむ計画(デッサン)である…してみると、ものを「イデア」に還元するとは生成をその主たる瞬間(契機)に分解することであり、しかもそれらの瞬間はいずれもその建前からいつて時間の法則をのがれて永遠のなかへ摘みとられた形になっている。…動く事象の底に動かぬイデアが置かれるやいなや、ひとつの全自然学が、ひとつの全宇宙論が、それどころかひとつの神学ともいべきものの全体がかならず生じる。…プラトンからアリストテレスを経て(ある程度はストア派さえも経て)プロチノスまで展開する教説は、その大筋においてはなにひとつ附随的なところも偶然的なところもなく、なにひとつとして哲学者の空想ととるべきものはなかった。その大筋に示されているのは体系ずきな知性が万有生成の流れを間遠な眺めにうつしとり、これを通して生成をかえりみながら知性自身にえがいてみせているその流れの姿なのである。

(ベルクソン著、真方敬道訳『創造的進化』岩波文庫、2005年、368-369頁)

- 問1 (A)の文中の(a)から(e)には、①マーヒーヤか②フウィーヤの言葉が入る。適切なものを番号で示せ。
- 問2 (A)の著者は、芭蕉の「俳句」が、主体と客体とのどのような関係や働きにおいて成立すると考えているか。自分の言葉でわかりやすく説明せよ。
- 問3 (B)で述べられる「エイドス」の特徴について、具体的な事例をあげて説明せよ。
- 問4 (A)と(B)について、下線部③と④に着目して、両者に共通する特殊と普遍との関係性を述べよ。

(解答用紙に答えること)

# 解 答 用 紙

専門分野	倫理学						
受験番号							

(3枚中の1枚目)

I (英語問題)

問 1

問 2

問 3

問 4

# 解 答 用 紙

専門分野	倫理学						
受験番号							

(3枚中の2枚目)

# 解 答 用 紙

専門分野	倫理学						
受験番号							

(3枚中の3枚目)

## Ⅲ (日本語問題)

問 1

a		b		c		d		e	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

問 2

問 3

問 4

# 下 書 用 紙

(1枚中の1枚目)